

【目指す姿】

地域を知り、大切にする子

地域部

	評価項目(成果) 取組(教育・運営活動)	評価基準	1学期		2学期			
			評価	分析及び考察	評価	分析及び考察		
成果	○地域の様々な文化的資源とかかわる活動を通して、地域を知り、大切にしていこうとする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「生活科・総合的な学習の時間などから、浦佐の好きなところやよいところを知っていますか。」 ・保護者アンケート「浦佐の好きなところやよいところを言える。」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 90.0 % 保護者 82.6 % (職員) 90.0 %	A	・児童、保護者、職員アンケートともに肯定的な評価が80パーセントを超えた。1学期に地域と関わる活動を設定したことで地域によきに目を向けることができた。2学期以降の活動を深め、学期を追うごとに達成率が上がっていくようにする。 ・昨年度は保護者アンケートの肯定的評価が80パーセントに届かなかったが、今年度は80パーセントを上回った。地域と関わる活動を行うだけでなく、便りやホームページで発信するように努めたことが結果につながったのではないかと考えられる。今後も積極的に発信したり、児童に意識付けをしったりしていく。	児童 89.8 % 保護者 82.5 % (職員) 95.2 %	A	・児童、保護者の評価の数値は、1学期とほぼ同じだった。中には90%を大きく超える学年もあり、全校でも「とても思う」と回答した児童が増えた。 ・学習発表会で、複数の学年が生活科や総合的な学習の時間の取組の成果を発表し、学んだことを再確認したり、保護者や地域の人に向けて発信したことが肯定的な評価につながったと考えられる。 ・各学年で地域と関わる活動を設定したことで、地域によきに目を向けることができた。
	○国際科の学習や異なる文化をもつ人々とかかわりにより、相手の思いを受け止め、互いを尊重しようとする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「英語の学習や国際理解の活動は楽しいですか」 ・保護者アンケート「英語の学習や、国際理解の活動を楽しんでいる」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 88.2 % 保護者 69.4 % (職員) 95.0 %	B	・児童と職員のアンケートは80パーセントを上回った。児童は英語の学習や国際科の活動を楽しみ、職員も活動を工夫して取り組むことができた。 ・一方で保護者アンケートの結果は全学年が80パーセントを下回った。2学期以降の国際大学の留学生訪問などにおいて国際理解教育を充実させる。さらに、ジャパニーズクラスとも連携して、外国の遊びやあいさつを取り入れたイベントや外国籍児童による自国紹介などを計画したり、活動したことをお便りなどで発信したりしていく。	児童 87.3 % 保護者 79.8 % (職員) 100.0 %	B	・保護者の評価の数値が80%近くまで上がった。職員も100%となった。特に低学年の数値の向上が見られた。来年度は、留学生訪問の様子をフリー参観にして、活動の様子を実際に見てもらいたい。 ・児童の達成率は全学年で80%を上回った。特に1、2、3年で90%以上と高かった。 ・留学生訪問では、国の紹介など、多くの児童が興味深く話に聞き入っていた。異なる文化をもつ人々とコミュニケーションをとることの楽しさを実感することができた。保護者にも活動の様子を発信することができた。 ・外国籍児童と相互に文化などについて紹介しあう機会を設定することができなかった。外国の遊びやあいさつを取り入れたイベントや外国籍児童による自国紹介などを計画していきたい。
教育活動	○地域(人、物、場所、出来事)とかかわる活動を学期に1回以上行い、発信する。	A: 通常学級すべてで学期に1回以上実施 B: Aに満たない	11/11 学級	A	・各学年が地域と関わる活動を計画し、発信することができた。2学期以降も生活科や総合的な学習の時間での活動で地域と関わる場面が増えると考えられる。その都度、児童の活動が発信できるようにする。	10/11 学級	B	・各学年で活動から学んだことを振り返り、自分なりにまとめたことを発表し合うことで、深め合いの場を設定することができた。
	○国際理解や外国籍児童・保護者との活動など、異なる文化とかかわる場を学期に1回以上設定する。(教科横断的に活動を設定する)	A: 通常学級すべてで学期に1回以上実施 B: Aに満たない	11/11 学級	A	・外国籍児童とかかわりなどを通して、クラスごとに外国の文化に触れることができた。 ・外国籍児童が少人数となり、クラスに1人もいない場合もあるが、国際大学の留学生との交流会や他のクラスの外国籍児童とも関われるように全校での取組も計画していく。	11/11 学級	A	・留学生訪問や外国籍児童とかかわりを通して、各学年で外国の文化に触れる機会を設けることができた。 ・各学年が国際科や国際理解教育の活動を工夫して実施することができた。
運営活動	○地域コーディネーター(地域づくり協議会等も含む)と連携し、活動について相談する場を必要に応じて設ける。(情報交換、共有など)	A: 年に1回以上実施 B: 実施していない ・地域コーディネーターの●●●先生と連携していく。各学年の活動に応じて、講師を紹介していただいたり、一緒に活動していただいたりする。			年間で評価		A	・随時、地域コーディネーターと連携しながら活動を実施することができた。講師の紹介だけでなく活動にも参加していただいた。来年度に向けて今年度の振り返りをする機会を設けたい。
	○人材バンク(地域住民、国際大学、外国籍児童の保護者など)の整備や資料の周知を行う。	・国際理解教育の一環として留学生訪問や人材バンクが活用できること、その良さや違いを1学期のうちに各学年に周知し、学習活動の設定に役立てられるようにする。			・1学期の留学生との交流会について周知したが、希望学年がなかった。11月に全学年が交流会を行うよう調整を行う。			